

教育史だより



第7号（平成26年6月30日更新）

PTAと民主主義

PTAとは、Parent-Teacher Associationの略称で、日本では「父母と先生の会」と訳されていました。その歴史は、19世紀末のアメリカで、バーニー夫人らによる児童愛護と教育環境の整備をめざした母親運動から始まりました。その後、この運動に、父親と教師が参加し、「父母と教師が対等の立場で、子どもの教育について共に語り合う」活動として世界各地に広まりました。

日本のPTAは、昭和21年に来日したアメリカの教育使節団が、日本の教育の民主化のためにPTAを奨励したことを受け、文部省が、翌22年3月全国各都道府県知事あてに資料「父母と先生の会」を送達するなどして、PTAの普及を積極的に進めたことから始まりました。

本県では、昭和22年4月に「『父兄と先生の会』に関する講演と懇談会開催について」という通達を出し（資料参照）、PTAの主旨や目的等の普及を図り、県下各地にPTAの結成が見られるようになりました。さらに、翌23年4月の通達「PTA結成促進運営振興について」において、PTAの速やかな結成と活発な運営を呼びかけました。これにより、昭和22年には40%以下だった結成率が、翌23年には約70%、昭和25年では、公立の学校は小中高ともほぼ100%になりました。

県や軍政部はPTAに関する講習会をしばしば開きました。「PTA総会」と題する議事進行法を実演する劇を奨励し、これを広くPTA会員に公開しました。県立湘南高校では、昭和24年1月20日のPTA総会で、父母、職員が演劇部の応援を得て演じてみせました。この脚本の内容は、議事の進行法を知らせるとともに、戦前の流れをくむ当時の団体運営を風刺しながら、皆が対等の立場で参加する民主主義の態度を養成しようとするものでした。

こうして占領下の日本では、PTAを通じてその保護者たちに「民主主義」を浸透させていこうとしたのでした。

【資料】県教育部長から地方事務所長及び三市長（横浜、川崎、横須賀）あて通達の主文及び要項の内容（原本は縦書き）

「父兄と先生の会」に関する講演と懇談会開催について

子供等が正しく健やかに育っていくのには、家庭と学校と社会とがその教育の責任を分け合い力を合わせて子供達の幸福のために努力していくことが大切である。このためには従来の父兄会、母姉会、後援会、保護者会といったようなものから一步前進して家庭、学校、社会の三者が真に一体となった新しい組織をつくり子供たちのための仕事を具体的に進めて行く必要がある。今般 GHQ のあつ旋で標記の会が下記要項により開催されるので、御了知の上貴管下国民学校中学校関係者の出席方御手配願いたい。

期日	時間	会場	参加範囲
四月八日	自 九・四五 至 一五・三〇	県立横浜第一高女	横浜、川崎、藤沢、 鎌倉各市郡、高座、 三浦、津久井各郡
四月十一日	同上	小田原市本町国民学校	平塚、小田原各市、 中、愛甲、足柄上、 同下各郡

<参考資料>

神奈川県戦後教育問題研究会 2001 『かながわ学びの軌跡』

- 神奈川県教育委員会 1957 『社会教育十年のあゆみ』
- 神奈川県教育委員会 1998 『平成 10 年度 PTA 活動のためのハンドブック』

問合せ先

神奈川県立総合教育センター
学校教育支援課 学校支援班
(0466)81-1659